

西光寺だより

第七十七号 平成二九年 一月一日発行

新年明けましておめでとございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

二〇一七年、新しい年が幕を明けました。今年の元旦は晴天に恵まれ全国各地で美しい初日の出が見られたことと思います。

一年の初めに見る朝陽が手を合わさずにはいられないほど尊く感じられるのは、新しい年を迎えられたことへの感謝の気持ちからでしょうか。

それとも、全てを明るく照らしていく大きな大きな存在を前に自分の小ささに気付かされるからでしょうか。

『浄土和讃』の冒頭に次のような和讃があります。

無明の闇を 破するゆえ 智慧光仏と なづけたり

一切諸仏・三乗衆 ともに嘆誉したまへり

※現代語訳 阿弥陀仏の光は無明の闇をすべて破るから、智慧光仏と申し上げる。すべての仏も菩薩も縁覚も声聞も、みなともにほめたたえておられる。

「無明」とは「闇」のことです。仏教では私たちの無知の闇、「煩惱」を指します。そしてその闇を破るのが「智慧光仏」と呼ばれる阿弥陀さまです。つまり、わたしたちの煩惱がどんなに深い闇であろうとも、その智慧の光は必ず破っていくと言われるのです。

私たちは、新年をせっかく新たな気持ちで迎えても、日を追うごとに自分の都合にまかせて周りを見てしまいがちになります。一日一日生かされてい

ることへの感謝を忘れ怠慢な日々を過ごしてしまいます。同じ過ちを繰り返す、そんな煩惱の中に生きているのが私たちです。そんな私たちが煩惱の闇からさとの世界へと救い出して下さるために、阿弥陀さまはいつもその智慧の光で照らし続けて下さっています。

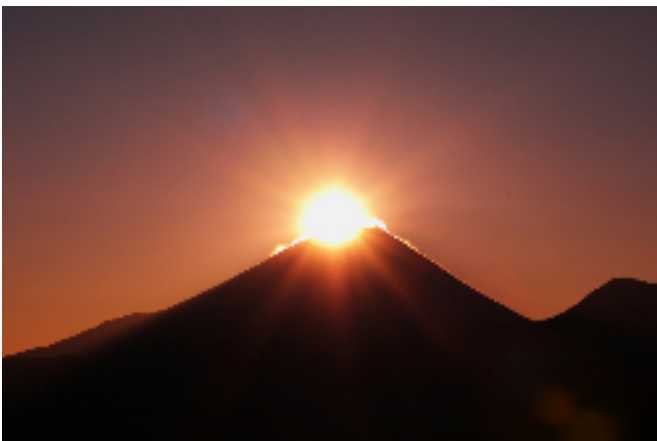
太陽の光がご来光といわれるように、暗闇から生きとし生けるものを照らしていく荘厳な輝きを目にしたとき、私たちがいつ何時でも照らして下さいる阿弥陀さまのお慈悲を感じずにはいられないのです。

◆先月の報告◆

一月一日(日)西光寺本堂にて元旦会法要を厳修し、正信偈のお勤めを致しました。旧年の思いと新年の新たな思いを感じながら、今ある命と向き合う法要を皆さんとさせて頂きました。これからどんな一年になるかわかりませんが、常に阿弥陀さまに見守られているという大きな安心の中、共に精進させて頂きたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>